



令和 8 年 5 月 25 日
午前 10 時 15 分 受領

No. 1

議長	事務局長	係
		

令和 8 年 5 月 25 日

愛南町議会議長 吉田 茂生 殿

愛南町議会議員 嘉喜山 茂

一 般 質 問 通 告 書

次のとおり通告します。

質 問 の 要 旨	答 弁 を 求 め る 者
<p>1 将来を見据えた地域公共交通政策について</p> <p>急速な人口減少と少子高齢化が進行する本町においては、地域社会に関わる様々な課題が顕在化している。とりわけ、移動手段の確保は、住民の日常生活や地域コミュニティの存続に直結する喫緊の課題と考える。</p> <p>本町では、一本松地域におけるタクシー休止をはじめ、内海・西海など半島部や中山間地域において移動手段の確保が大きな課題となっており、高齢化が進む中、通院や買い物など日常生活の移動が困難となり、住民生活への影響は深刻化している。</p> <p>例えば、一本松地域から医療機関へ通院する場合、迎車料金を含め片道 3,000 円から 4,000 円近い負担が生じており、継続的な通院を困難にする深刻な経済的負担となっている。</p> <p>地域公共交通の活性化及び再生に関する法律においても、地方公共団体には地域公共交通の維持・確保に向けた主体的役割が求められており、交通政策は、移動に困る人を支える福祉政策という側面だけでなく、地域の定住環境や将来のまちづくり、さらには地域全体の移動体系をどのように維持・再構築していくかという、長期的視点で取り組むべき重要な政策課題であると考えます。</p> <p>これらの点を踏まえ、次の 5 点について伺う。</p>	町長

① 地域交通の現状認識

一本松地域をはじめとする交通空白地域において、高齢者等の移動負担が増大している現状を、町長はどのように認識しているか。また、地域公共交通の維持確保を、人口減少対策や定住環境の維持という観点からどのように位置付けているのか。

② タクシー事業の維持・承継支援

一本松地域の交通機能を維持する観点から、新たな交通事業の担い手が安定的に運営できるよう、具体的な支援策の検討や必要な関係者間の調整を行う考えはないか。

③ 当面の移動支援策

事業承継が実現するまでの暫定措置として、また交通空白地域への継続的な対応として、負担の大きい迎車料金への補助や通院支援など、住民生活を守り移動負担を軽減する支援策を講じる考えはないか。

④ DXを活用した交通データの統合分析と専門人材の確保

DXを活用して、スクールバス・福祉輸送・民間交通などの運行データを横断的に集約・分析することで、地域交通全体の効率化や重複・空白の解消を図る考えはないか。

また、交通政策を効果的に進めるためには専門的知見が必要と考える。外部専門家との連携や職員の政策立案能力の育成について見解を伺う。

⑤ デマンド交通の導入

半島部・中山間地域における交通課題に持続的に対応するため、予約型のデマンド交通の導入を図るべきと考える。

高齢者の移動支援にとどまらず、観光二次交通や南宇和高校魅力化事業で全国から集う生徒・寮生の移動手段としても機能する、多目的型デマンド交通の導入など関係機関と連携して、愛南町の実情に即した持続可能な地域交通モデルを早期に構築していくべきと考えるが、見解を伺う。